

定山溪もりづくり発表会を行いました



平成24年2月21日（火）アイヌ文化交流センター（ピリカコタン）でみずもり会議主催による「定山溪もりづくり発表会」を行いました。発表会には一般市民の方をはじめ、定山溪中学校の先生・生徒の皆さんなど大勢の方が参加しました。

地域のもりから学ぶもりづくりは、昭和22年から札幌市の水瓶である定山溪の森を造りながら、森を深く学ぶことを目的に専門家をはじめ多くの方々の協力を得ながら実施しています。

今回の発表会では平成23年度の概要報告（石狩ふれあいセンター）、活動報告を定山溪中学校の生徒が行いました。また特別講演として、定山溪中学校の西村校長先生と自然環境研究室主宰の鮫島惇一郎氏から貴重なお話しを伺いました。

発表会の一部を紹介します。



定山溪中学校の佐藤絵美里さんの司会で、歩行性昆虫や動物調査の結果を山口美春さん、宮野桃子さん、上村隼人くんにより発表を行いました。本年度、これらの発表は林野庁研究発表の全国レクリエーション協会会長賞や札幌こども環境コンテストの優秀賞を受賞しています。また、会場にはこの発表に関係したパネル展示も行いました。



自然環境教育の取り組み

定山溪中学校長 西村日登志
定山溪中学校の西村です。

さて、札幌市では札幌の特色ある教育目標として「雪」「環境」「読書」を上げています。この中で環境についてどう取り組むか考えているときに、ふれあいセンターやみずもり会議さんから森林教室のお誘いがあった訳です。この森林教室を通して学び、知り得たことを本日、生徒達が発表いたしました。発表することや、賞をいただくことで、生徒はより自信が深まっていると感じています。また、「生物多様性」を学ぶことで一人一人の個性を思いやる気持ちが芽生えており教育的意義も大いに高まっていると感じています。

また、地元定山溪の自然、かけがえのない広大な自然を身近に知る良い機会にもなっています。

中学校として今後も学校を利用して頂くことはもちろんですが、併せてご指導願えればと思っています。



定山溪の歴史と自然

自然環境研究室主宰 鮫島惇一郎

自然や森林は今、目の前にある姿が元の姿だったと思ってしまう訳なんです。ところが実際に長い目で見ると、とんでもない結果になっているんですね。自然がみすぼらしくなっていた過程とはそう言う訳だと思います。

もうひとつ水のお話しですか、札幌や定山溪は、ものすごくきれいな水なんです。これが定山溪の特色と言う事が出来ます。これを未来に渡してあげる努力を我々がしなくちゃならないと、肝に命じている訳です。この大事な定山溪、意外と住んでいる人達は良さが解らないものです。自分達が住んでいる場所の良さと言うのを、認識すると言うのは非常に大切であり、大変なことなんです、と言う事で未来永劫、若い人達の力に背負う所、すいぶんあると思いますので、若い人達に声援を心から送りたいと思います。

